

国立天文台・天文情報センター・アーカイブ室 中桐正夫

＊ コピー機 キーオペレーター免許証収蔵

筆者が天文台に入った頃は、今のように便利なコピー機は存在しなかった。青焼きという湿式のコピー機があったが、これは1枚ずつしかコピーが取れなかったし、コピーのほかに陰画に反転された副産物の紙も出てきた。北研究棟が建ち、暫くしてゼロックスコピー機が旧図書館1階の北東隅の部屋に導入された。筆者がまだ岡山勤務だった頃、清水実氏と東大生産技術研究所を尋ねた時、コピー機の研究がなされており、原画をドラムに転写するところまで成功していた。そして課題はこれをどうすれば紙に転写印刷することができるかだという話を聞いてから間もなくであった。そしてそのコピー機を使うには写真1のような免許証が必要だったのである。これは、今年度で定年を迎える宮内良子氏から提供されたものである。筆者もどこかには持っているはずだが、出てこない。

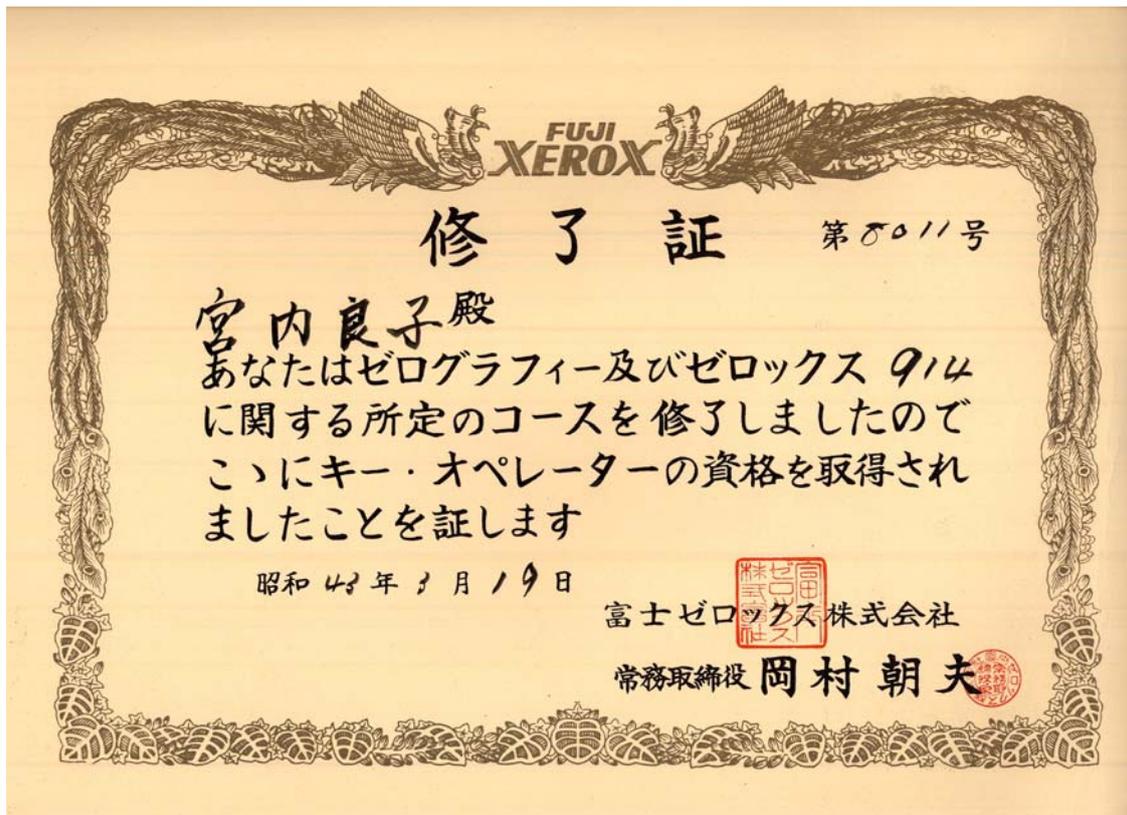


写真1 コピー機のオペレーター免許証

今は昔、免許の年月を見ると、昭和43年とある。今年(2022年)は昭和55年である。41年前の事だが、この40年間の技術進歩の目覚しさは目を見張るものがある。この激動の中を生きてきたおもしろさを感じている。